

ハエは火の目小ぞうの鼻の先にぶつかりました。火の目小ぞうはびっくりして、「しまった。にげたぞ。」と言いながら、いきなりシュウシュウと両方の目から火をふきました。するとハエは、たちまち小さな魚にばけて、向こうのいずみの中へ飛びこみました。火の目小ぞうはそれを見とどけて、ナガナガとブクブクと王子とをよび起こしました。みんなはびっくりして、はねおきて、火の目小ぞうといっしょに、そのいずみのそばへかけつけました。行ってみると、そのいずみというのは、まるで底も見えないほどの深い深いいずみでした。ところがナガナガは、「なあに、おれがつかまえてみせる。」と言いながら、水の中へ頭をつっこんで、するするとからだを底までのばしました。そして両手でもって水の底をすみからすみまで、残らずかき、さがしました。すると魚はどこへかくれている

のか、いくらかきまわしても、さっぱり見つかりません。ブクブクはそれを見て、「おい